

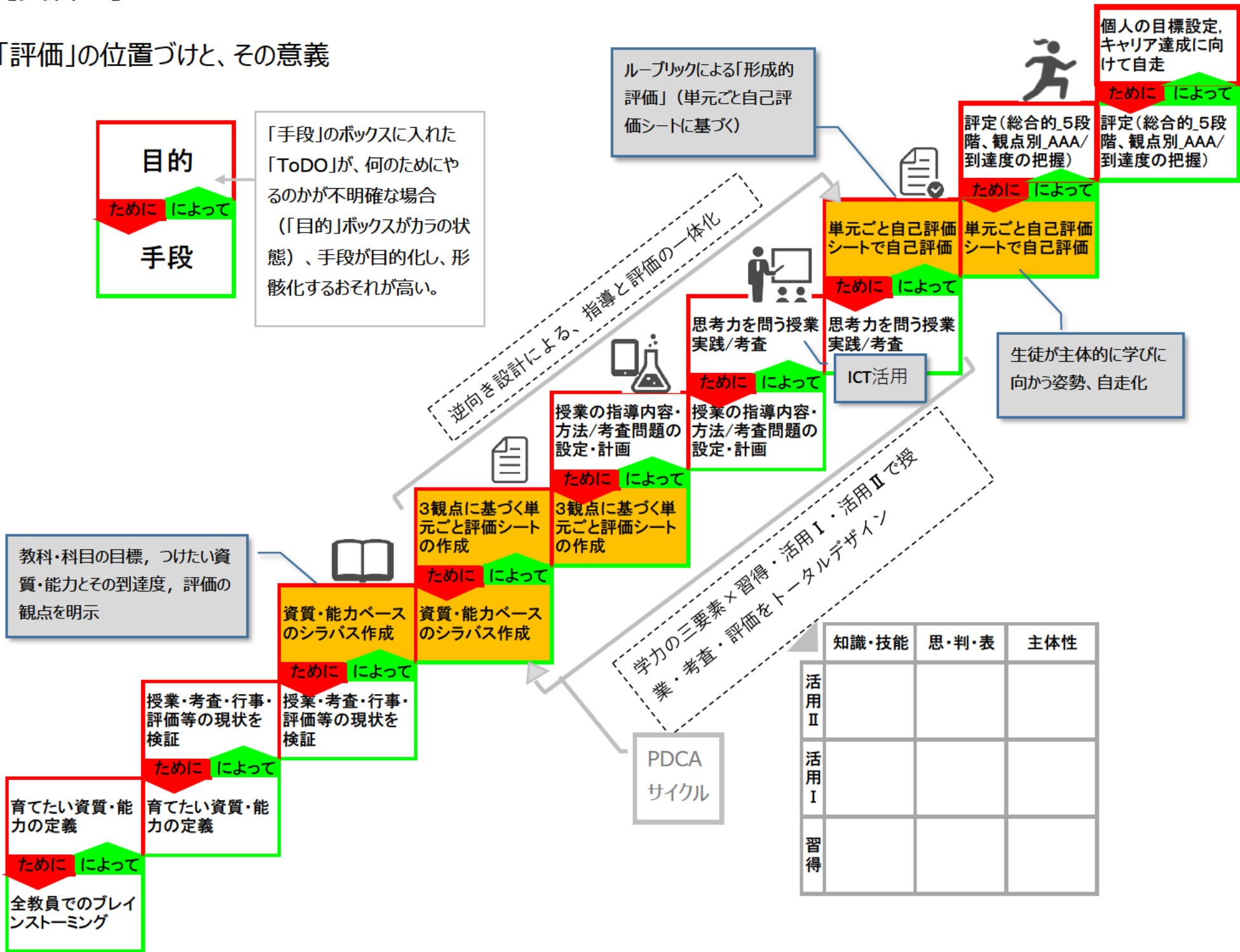
## 【資料1】



1. そもそも評価とは何か【定義】／なぜ今「評価」なのか【トレンド】
  - 学習評価の種類やその性質などについて、知識があいまいではありませんか。学校全体で共通理解がなされていますか。
  - 『学習指導要領総則』の第3款「学習評価」の項目を読み、意義を理解していますか。
  - 「指導と評価の一体化」とは、いったい何なのでしょう。
  - 「評価」と「評定」は同じものですか。それぞれから連想する言葉やイメージは何ですか。
  - 何気なく口にする「成績」とは、何を指すのでしょうか。
2. なぜ、何のために評価するのか【目的】／だれがだれを評価するのか【主体・対象】
  - 評価は何のために行うものなのか、あらためて考えてみたことはありますか。
  - 評価はいったいだれのために行うものなのでしょう。
  - 生徒の自己評価は、評価に含めてはいけないのでしょうか。
3. 何を評価するのか【観点】／何を使って評価するのか【手段】
  - 定期考査の作問のコンセプトは何ですか。その設問でどのような力を見ようとしていますか。
  - 日々の小テストや課題テキストは、何を評価することを目的にやっていますか。
  - ルーブリックなどによる生徒自身の観点別振り返りは定期的にできていますか。またそうした自己評価の意義について実感はありますか。
  - 学力の3要素（評価の3観点）を意識した授業・考査問題・課題になっていますか。またそのことが生徒に明示的に伝わっていますか。
4. いつ評価するのか【タイミング】
  - 単元、学期、年間など、時期に応じて評価の目的・観点・手段を決めて実施していますか。
5. いま行っている評価とは【現状】
  - いま行っている評価は主に何に依拠していますか。
  - いま行っている評価で生徒は自分の成長や伸びしろを実感できますか。
  - いま行っている評価について、生徒はその観点や規準を把握していますか。
  - 「今回はだめだったので、次は頑張る」この程度の振り返りしかできないことの原因は、何なのでしょう。

# 【資料 2】

## 「評価」の位置づけと、その意義



科目	現代文B	授業時数	週 2	単位
		履修学年・類型	3	学年

目標 近代以降の日本語による文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、もの見方、考え方を深め、日本語の運用能力の向上を図り、流暢に使う能力を育てる。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか[めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
評価規準〔育ちのプロセス〕 使える 活用Ⅱ	基礎的な読解技法や語彙力を駆使して複雑な論理展開や抽象度の高い語彙や表現を使いこなすことができる。	複雑な論理展開や難解な表現を分析してわかりやすく説明し、あるいは自らテーマを設定し、考えを論理的に表現することができる。	広く社会に目を向け、現象から原理を導き出したり、因果関係を導き出したりする主体性や探究心を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	論理展開の形式や、文学の理論・表現技法を正しく理解し、それを用いて読み、書くことができる。	論理展開や描写・表現の技法を把握しつつ、文章の主題を的確にとらえ、表現することができる。	自分の考えを他者と伝え合うことで、論理的かつ効果的に表現しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	基本的な文法および語彙の意味や文学史などの背景知識を正確に理解したうえで、話し、聞き、読み、書くことができる。	基礎的な語彙力・文法力に基づいて筋道立てて考え、それを表現することができる。	積極的に語彙力を伸ばし、話し、聞き、読み、書く言語生活を豊かにしようと心がける態度を身に付けている。
青高力	[知力・学力]	[知力・学力] [論理的思考力] [原因分析力] [受信発信力]	[協働力] [行動力]
評価方法	授業時の観察・定期考査・課題確認テスト（小テスト）	授業時の観察・実力テスト・定期考査・課題レポートなど	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価（論文・レポートなどの自主的な取組）

■いつ、何を学ぶか[学習内容]

	学習内容
1学期	[評論] 哲学的文章の読解（鷲田清一） [小説] 現代短編小説の読解（安部公房） [評論] 文化論の読解（高階秀爾） [随想] 文学的随想の読解（堀辰雄）
2学期	[評論] 近代日本思想の読解（丸山真男） [小説] 近代短編小説の読解（梶井基次郎） [評論] 現代思想（論理学）の読解（野矢茂樹） [小説] 文語文による長編小説の読解（森鷗外）
3学期	[評論] 読解演習 [小説] 読解演習

■何で学ぶか[教材]

- ・教科書「精選現代文B 新訂版」大修館書店
- ・「読解を深める現代文単語」桐原書店
- ・「頻出漢字マスター3000」尚文出版
- ・「ビジュアルカラー国語便覧」大修館書店
- ・「応用現代文 改訂版」尚文出版
- ・「センター試験国語過去問題」尚文出版

■どのように学ぶか[授業の方法/学び方]

学んだ知識・読解技能を使って文章を読み、言語という純粋に抽象的な概念による、思考と表現を鍛えるための時間です。ただし、最終的には、形に残す（答案をつくる）ことが求められるという意味では、一種の実技教科と言えるかもしれません。脳とともに手を動かしてください。

## ■どのように評価されるか[イメージ]

	知識・技能	思考・判断	表現	学びに向かう力
活用Ⅱ		校内模試		
活用Ⅰ			課題レポートなど	取組状況・姿勢
習得	定期考査			

いわゆるペーパーテストの点数が全てではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価するので、テスト以外の普段の取組も評価の対象となります。また、テストは答えの丸暗記で対応できるものではありません。知識・技能にもとづいた思考力・判断力を問うものですから、普段から本質的な力を磨いていかなければなりません。

## ■どう受けとめ、何をするか[振り返り]

テストごと学期ごとに、自身の学習到達度を左のページ「評価規準(育ちのプロセス)」を参考に振り返ってください。取った点数で「よかった・わるかった」ではなく、何をどのように改善すべきか、直ぐに行動に移せるような具体的な振り返りが大切です。言葉にしてみよう。自分を向上させるためにしっかり取り組んでください。

1 学期	2 学期	3 学期
目標 ..... ..... .....	目標 ..... ..... .....	目標 ..... ..... .....
振り返り (伸びた点や課題) ..... ..... .....	振り返り (伸びた点や課題) ..... ..... .....	振り返り (伸びた点や課題) ..... ..... .....
校内模試 振り返り	校内模試 振り返り	共通テスト試験 振り返り
..... ..... .....	..... ..... .....	..... ..... .....
1 学期中間考査 振り返り	2 学期中間考査 振り返り	進路目標の実現に向けて 目標 ..... ..... .....
..... ..... .....	..... ..... .....	振り返り (今後の課題) ..... ..... .....
1 学期末考査 振り返り	校内模試 振り返り	
..... ..... .....	..... ..... .....	
	2 学期末考査 振り返り	
	..... ..... .....	

# 【資料 4】

## 単元ごと自己評価シート

学期 No.

単元	小単元	
----	-----	--

「知識・技能」「思考力判断力表現力」「学びに向かう力」それぞれの項目についてこの単元での学びを振り返り、自分が該当すると思われる段階を選び、A B Cを大きく丸で囲んでください。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
使える 活用 II	「抽象」「具体」といった抽象語彙を支援無しで自らの判断で表現し使いこなすことができました。	段落の展開を把握する方法を使いこなし、支援無しに筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援無しでも、自ら主体的に文章等を読み、身につけた語彙力・表現力を使いこなす姿勢を発揮した。
できる 活用 I	「抽象」「具体」といった抽象語彙を用いた表現について、支援を得ながら活用することができた。	支援を得ながら段落の展開を把握し、筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援を得られる場面においては、抽象的な語彙を使って論理的に表現しようとする態度を発揮できた。
わかる 習得	「抽象」「具体」などの抽象概念の対義語の意味・用法がわかるにとどまった。	段落の展開を把握する方法、筆者の主張を論理的に表現する方法がわかるにとどまった。	抽象語彙の意味を知り、それを使って論理的に表現する姿勢・態度の重要性がわかるにとどまった。
やり直し 未習得	「抽象」「具体」などの抽象概念の意味・用法が理解できなかった。	段落の展開把握の方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が理解できなかった。	語彙力、論理的に表現する姿勢・態度を伸ばそうとという意欲が持てなかった。

振り返りと見直し

年

組

番 ・ 氏名

【質疑応答レポート】

※時間の関係上、セミナー当日お答えいただけなかった質問に、後日ご回答いただきました※

先生方からいただいたご質問	笠井先生からのご回答
<p>教員の巻き込みや推進の工夫はよく理解できたのですが、そもそもの体制づくり、組織づくりにおいて工夫されていることがありましたら教えていただけますでしょうか。</p>	<p>5年ほど前までは「教育課程委員会」「進路指導委員会」など、教務部母体、進路部母体の拡大会議的な会議が存在していましたが、開店休業状態でした。結局分掌が原案を出して、それを運営委員（校長・教頭・学年主任・分掌主任）の例会で追認して、全体の職員会議に諮る、というスタイルだと、職員会議で初めて見聞きする先生がほとんどで、まったく浸透しませんでした。そういうお役所スタイルは、教育改革のような解のないトピックについて何かを決めるにはふさわしくないと考え、プレインストーミングしながら課題を洗い出し、それに基づいて大きな方向性やホネグミ、スケジュールだけを決め、議論して固める「煮詰める・煮込む会議体」＝「キャリア教育委員会」を作りました。とにかく「キャリア形成」にかかわる様々な問題はなんでもこの委員会で議論する一必要に応じて教科・学年・分掌に下して吸い上げる、形が固まったら運営委員会、職員会議で微修正、という感じです。特に教育課程編成は、全職員で「青森高校の強み弱み」「時代に即応/普遍性」という軸でワークショップを開き、それを言語化してベースにしつつ編成方針を共有し、それから設計に入ったのでコンセンサスが得られやすかったです。大きなアジェンダについては全職員ワークショップ、というのがうちの定番です。</p>
<p>本校では10段階評価を学期末・学年末で公表しておりますが、評点、各観点の評価から、学期末及び年度末の評価を算出する場合、どうしても各観点の直感的な評価と実際の評価で逆転してしまう可能性を否定できません。特に、10段階評価の場合にはどのようにするのか、何か良い案がありましたら教えてください。</p>	<p>別紙で「観点別評価→評点→評定 換算票」を保護者生徒にも公開するのでしょうか？こうすることで伸びしろや伸ばすべき観点がわかり、オープンな感じで納得感があるのではないのでしょうか？ところで、「直感と異なる」という際の「直感」とは何なのかが問題です。これもある本で読んだのですが、システムが出す答えは往々にして我々の直感とは異なる（逆の）挙動を示すことがあるようです。これは「感覚値は常に正しい」という我々の思い込みにあるからかもしれません。そしてその「直感」とは何であるかを言語化できないこと自体にも問題があるのだと思います。「直感と実際の評定（評価）」との間のギャップ認識に、間主観性（多くの先生の共通了解、妥当性）があるのであれば、評価の重みづけシステムの設計（言語化）のほうに問題があり、そこを修正する必要があるのではないのでしょうか？この方法が納得解・最適解である、と胸を張って根拠をもって説明することができれば、保護者が「不公平だ、不明瞭だ」と言ってきたとしても恐れることはないはずです。そのためのアンカーが綱領・目指す生徒像・スクールポリシーなわけです。聞きかじりの断片的な知識で言いがかりをつけられたとしても、評価ストーリーをしっかりとータルで語ることができれば、納得せざるを得ないでしょう。ですから、「評価は判定・ジャッジ・値ではないのです」という所に帰っていくわけです。</p>
<p>司単元ごと自己評価シートについて ①評価が高い生徒との面談の頻度、②非常勤講師の先生への対応について知りたいです。とくに②について、本校は、高校3年間コース別に分かれ(文系理系等)ません。よって、1科目の担当教員が多いときは6人になります。多いときはこの中の半分以上が非常勤講師という場合もありまして、十分な打ち合わせができるかどうか不安を感じています。</p>	<p>学校特有的な悩みですね。丁寧なプロセス評価と、非常勤雇用体系は相容れないものであり、これは行政的な「教職員課（人事）」「学校教育課（校務）」の縦割りの弊害だと考えます。したがって校長会から教育委員会へ働きかけ、常勤を確保すべく議会で予算を取ってもらうように頼むしかない問題です。しかし十分な状況でしっかりした見取りをすれば、ICTを活用するのが有効だと思います。単元ごと振り返りシートをClassiアンケートなどで行い、非常勤の先生でもちょこっとした時間でチェック可能ではないでしょうか。授業に付随する業務ですのでやっておく必要があるし、雇用契約内容に照らしそれが不可であれば、賃金が支払われるように私費・公費両にらみで交渉する必要があると思います。なんでも交渉次第で何とかかなと思います。私も結構ダメもとで後援会やPTA、同窓会にお金を無心しています。</p>
<p>初歩的な質問で恐縮ですが、学期ごとなどの観点別評価は、評定とともに毎学期生徒・保護者に開示すべきものでしょうか。指導要録には記載しますが、調査書には記載欄がないと思いますが、成績通知表ではどう扱うべきか、教えてください。</p>	<p>極端な話、評定は学年末だけで本当はよいわけですが…。観点別評価AAAについて現段階では通知表に載せられるシステムになっているかどうか「校務支援システム（全権統一規格）」の仕組みがまだ本県は分らないので私も困っています。ですが理想としては「国語総合 観点別ABA 評点 90 評定5」のように示したいと考えています。これと同時に別紙で「観点別評価→評点→評定 換算票」を保護者生徒にも公開するのでしょうか？こうすることで伸びしろや伸ばすべき観点がわかり、オープンな感じで納得感があるのではないかと？納得いかない場合も説明が明快にできると思います。「説明可能性」というのも発表の中で言及すればよかったですね。アカウントビリティを果たしやすい形。</p>
<p>現在、ほとんどの学校で「スクールポリシー」の策定が求められていると思いますが、そのスクールポリシーが観点別評価に与える影響は「青高力」からみても大きいと思います。笠井先生の「スクールポリシーと観点別評価の関係性」について思うところをお聞かせください。</p>	<p>関係性は強いです。3観点との紐づけをしてみると、3つのうちどれに重点が置かれているかが見えてくると思います。その比率に近い形で評価の「重みづけ（比率の設定）」をするわけです。この点を無視して都道府県教委によっては機械的に数値の比率の上限を設けたり（観点の間で2倍を超えてはならないとか）、観点の評価を連動させるよう指導したりしているようですが、そこは、各校の裁量に任せるべきで、おかしなことだと思います。いずれにせよ評価の重みづけについて、県に提出する義務があるのかなにかにもよりますが、どう転んでも比率の根拠をしっかりと説明できるように評価の重みづけと「資質能力」との関連をしっかりと言語化できることが重要だと思います。私も県から何か言われたら完璧に反論できるように勉強しています。</p>
<p>業務量が多くなるように思いましたが、勤務時間内に終わるように工夫されていることがあれば教えてください。</p>	<p>Classiでの効率化を推進しています。アンケートはすべてClassiでおこない、集計業務をゼロにしています。また、ペーパーレス化をすすめて、保護者への文書などもPDF化してアップロードで何も問題ありません。教科・科目の小テスト解答なども極力データアップロードで済ませ、印刷業務を減らしました。評価について、どうしても今までより増える部分はあると思います。しかし、目標に照らし生産性・意義のある業務なので、これを確保する分、情性のデフォルトをやめる。（例：「授業の頭5分で毎日やる小テスト作成＆採点」を廃止→「知識・技能」の定着度を測る時間をまとめて取る、宿題を集めるのをやめる（期限に間に合わせて提出することは、3観点のどれにも結びつかないから）これをやめても模試の成績が下がったりはしません。なぜなら模試はそんな設計にはなっていませんから。私は小テストやったことありません。狙いが定まった授業をすればその方が長期的にみて効果的です。）目的合理性の観点から見れば紐づけは無理のあるものはスクラップする、というデトックスが大事です。ただやめるのではなく、「・・・だからやめる」というぶれない根拠をもってやめたらみんな納得です。つまり業務のスリム化が目的ではなく、目指すものに対して不要だからやめる。スリム化は手段です。その辺の混同はステップ図でお考えいただけるのではないのでしょうか。</p>